

くらしにやさしい街 … 志木、よりよい環境を未来に残すために

エコシティ志木通信

2020年3月1日
(No. 97)

2020
*
3月

NPO法人エコシティ志木
代表理事 天田 眞
〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

<http://kappa-no.net/eco-shiki/>



写真：天田 眞

志木につらなる川の風景 (25)

新河岸川 (新河岸と旭橋)

東上線新河岸駅の志木側に接した踏切から東へ10分程歩くと、新河岸川の旭橋。このあたりが、江戸時代に舟運が始まったころの川越側の起点だった『新河岸』の場所。橋付近の下新河岸と上流に接した上新河岸、対岸の牛子河岸、300m程下流の寺尾河岸、後に1km程上流に開かれた扇河岸の5つを合わせて川越五河岸と呼ばれ、川越の玄関口として、多くの河岸場の中で最も繁栄した。また、当時の新河岸川は、ここから北東方面の伊佐沼から流れ出た川で、旭橋のすぐ上流で向きを変え、下流は現在と同じ流路となっていた。写真は寺尾河岸跡付近から望んだ旭橋。橋の手前左手が下新河岸の河岸場跡。(天田 眞)

志木の自然観察（冬）

～柳瀬川の野鳥～

2月2日(日)は冬晴れで冷え込みましたが、柳瀬川駅前の円形広場には小学生から高齢の方まで幅広い層の男女が集合し、今年も柳瀬川での冬鳥観察会が始まりました。中には市役所の掲示板に貼ってあったチラシを見て参加した人もいたようです。

私は公園の整備や斜面林の手入れを行っている「エコシティ志木」の活動に共感して昨年1月に加入したのですが、翌月開催の野鳥観察会に参加して冬の野鳥をたくさん観察することが出来、エコシティ志木の活動の幅広さと充実した内容に驚かされました。

今年は川原の改修工事が行われており野鳥が寄り付かないのではと心配していましたが、20種近くの野鳥を観察でき感激でした。ウォーキングの途中に土手から見渡すとそんなにいないようですが、ゆっくりと歩き、時には立ち止まり目を凝らして観察すると次々と見つけることが出来ます。特に仲間がいるとたくさんの目で探すので見つけやすいようです。

青木指導員によれば、柳瀬川土手は観察できる野鳥の種類では近隣でも有数のポイントのようです。また、午前中に右岸(志木中学校側)から観察すると影にならず見やすいとのことでした。

冬鳥の代表格であるカモ類では、ヒドリガモ、カルガモ、オナガガモ、マガモ、コガモなどが観察できました。ヒドリガモは柳瀬川ではよく見ることが出来ますが、オスの額から頭上はクリーム色で、それ以外の頭部は茶褐色のきれいな渡り鳥です。コガモのオスは頭部が栗色で目から後ろの部分は緑色が鮮やかでかわいいカモです。「飛ぶ青い宝石」とも呼ばれるカワセミが川面を滑空し岸边の木に止まるのを観察できました。こんなに近くで見つけることが出来、皆さん大喜びでした。

ビバホーム裏の左岸、高い護岸壁にアオサギ、ダイサギ、コサギが仲良く並んで止まっていました。日当たりが良く風が当たらず居心地が良い場所のようです。

今年の観察会は昨年より多くの人が参加されま



2016年2月7日撮影

[写真：青木 明雄]

したが、青木指導員の解説が分かり易く楽しめる内容だったと好評でした。天候にも恵まれ有意義な半日を過ごすことが出来ました。

(畠 光男)

新河岸川のあらまし（3）

新河岸川の現在の流れは 1922（大正 11）年～1930（昭和 5）年の改修工事によりつくられたものです。このうち当時の荒川への合流点（朝霞・和光・戸田の境界点）より上流の工事を県が担当、下流の新川開削工事を国が担当しました。今回は県担当の志木周辺の主な工事について紹介します。参考資料：昭和 6 年埼玉県発行『新河岸川改修工事概要』の復刻（新河岸川文化 4 号 1980 年）

勾配と水位

新河岸川の低水路（平常時に水が流れる部分）の勾配は、志木より上流は 4,500 分の 1、下流は 7,000 分の 1～10,000 分の 1 とされた。低水路の水深は、志木より下流はかなり深く、潮位の影響もあるため平常時の舟運には支障がないものの、上流部は水深が浅く航行が困難なため、水位を上昇させるために低水路中に**洗堰**を設け、同時にこの地点での上下水位連絡のために**宗岡閘門**を新設した。

構造物工事（樋管、特殊工事、橋梁）

全域では樋管・樋門が 26 カ所、その他の構造物が 4 カ所に築造され、橋梁は 6 カ所に架橋された。この内、志木周辺では、**宗岡閘門**と**洗堰・宗岡潜管・伊呂波橋・田子山樋管・市場樋管・郷土樋管**が築造された。

宗岡閘門及び洗堰

工事の主目的の洪水防御の他に舟運等の船舶航行も必要とされ、伊呂波橋下流 50m に、閘門及び洗堰を一体構造で新設した。

閘門

基礎杭は長さ 5.5m～10.6m の松丸太を使用。主体構造は鉄筋コンクリート造で通船幅 6.0m、閘室（船が上下する部分）有効長 25.8m。その扉は前後各 2 枚の鋼鉄製観音開き型とし、扉 1 枚の重量は約 4.5t。この開閉は人力により 1 回の通船操作時間は約 20 分。閘門の大きさは航行する各船種に対し安全で、更に将来の船体拡大を見越したもの。

洗堰

平常時流量の全部を洗堰により堰き止め溢流させることにより、上流低水路の水位上昇を図っている。堰による揚水位は低水時 1.15m で、直接影響区域は上流 8.0 km に達する。又、洪水時には堰扉を全開にし、低水路及び左岸側高水路にて最大流量を流す。洗堰は 1 カ所の通水幅 3.3m、中央高 4.4m のアーチ形が 3 連続した鉄筋コンクリート造で、基礎には長さ 10.6m の松丸太を使用。扉は幅 3.6m、高さ 1.8m、重量 1.7 t の鋼鉄製引き揚げ扉で人力巻き揚げ式。

宗岡潜管

江戸時代から新河岸川の上を渡っていた野火止用水のいろは樋は明治 31 年に川底に埋められた鑄鉄製潜管に改築されたが、この付近は新河岸川・柳瀬川の合流点の移動など、全く流路が変わるため再度改築された。付近は宗岡閘門・洗堰、伊呂波橋の架橋もあり困難な工事であった。この工事では主に在来の鉄管を利用し不足分に鉄筋コンクリート管を使用、その改築延長は 109m 余りとなった。鉄管継ぎ手個所には杭を打ったコンクリート基礎台を造り、継手には鉛充填の上、更にコンクリートを巻き漏水の絶無と構造の確実とが図られた。

伊呂波橋

県道浦和所沢線が新川を横断する個所に新設され、当初は木橋の計画だったが、この地点には閘門、洗堰、潜管等の施設があり、川幅広く且つ交通頻繁な重要路線のため計画が再検討され、実施では全て鉄筋コンクリート造で幅員 6.6m、長さ 74.3m となった。

以上に取り上げた構造物は、現在は全て解体または改築されています。宗岡閘門・洗堰は 1979 年に取り壊し。いろは橋は 1997 年に架け替え。

（天田 眞）

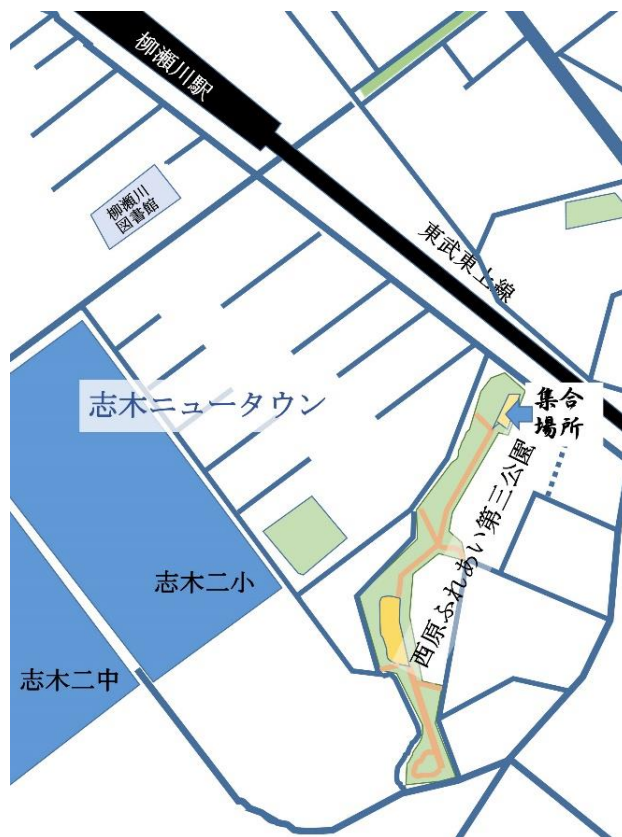
里山の手入れと観察

西原ふれあい第三公園の手入れ作業

今回、西原ふれあい第三公園の手入れ作業について報告します。私たちが行っている「里山の手入れと観察」のうちの一か所です。公園の南側（志木駅方面）は歩道やベンチなどが整備され、植栽した樹木による公園となっていますが、北側（ニュータウン側）には自然に近い斜面林が残されています。

月3回、朝9時半に東上線側入り口を上った空き地に集まります（雨天時は中止です）。参加は毎回7、8名ほどで、以前より人数が増えています。各人都合に合わせての参加ですので、人数が集まらないことも。朝礼後、剪定鋏、鎌、ノコギリなど道具を入れたバケツと、帚、熊手、運搬用の大袋をもって公園内に繰り出します。作業は季節により様々ですが、晩秋からは落ち葉掃きが中心になります。公園内の歩道や広場はもちろんのこと、周縁の道路脇まで含めて掃いています。大袋に詰めた落ち葉は、公園内に設けた落ち葉溜めに入れ、自然に朽ちるのに任せます。伸びたり混み合ったりした樹木の枝を払ったり、歩道にはみ出した植栽を刈ったりすること、公園内に生えるタケ、ササ類を適度に間引くことも作業の一つです。これらは、落ち葉溜めを作るため無駄なく利用します（高木類については重機などを使用するため市が直接行います。）また、ゴミ拾いも重要な仕事。毎回集めたゴミを朝の集合場所に仮置きし、年数回、可燃物、カン・ビン類、不燃物に分別して市に引き取ってもらいます。プラスチック廃棄物が問題になっていますが、毎回、ペットボトル、レジ袋、包装カラ、吸い殻（フィルター）など、玩具のビービー弾もあります。プラごみに拘わらず投げ捨ては残念なこと。自分が見えなくなったら終わりではなく、持ち帰って処理できないものかと思っています。

作業の傍ら、観察は楽しいひと時。公園区域では、既にロウバイが咲きましたが、ウメ、ミツマタ、サンシュユ、レンギョウ、それからサクラです。斜面林では、ニリンソウ、ジュウニヒトエ、ムラサキケマン、ジロボウエンゴサク、ハウチャクソウ、ウラシマソウなどの野草が見られます。花に限らず、天



田代表から芽生えや樹木の説明を聞くのも楽しい。斜面林は志木市に残された貴重な自然です。この里山環境を維持するには適度な管理が必要です。集ま



〔地図と写真：青木 明雄〕

る者同士の愉快的な会話と自然観察、身体を動かすことでリフレッシュ。公園の美化と合わせて、皆さん一緒にしましょう。

（鈴木 民雄）

里山の手入れと観察

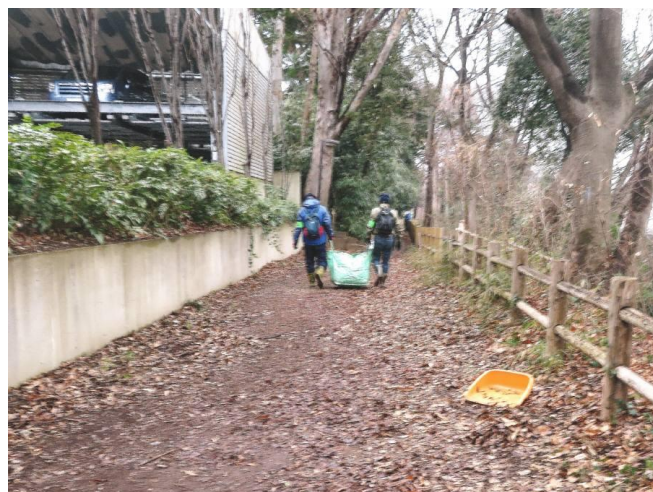
いろは親水公園「こもれびのこみち」

いろは親水公園は、柳瀬川と新河岸川が合流している場所です。「こもれびのこみち」は、合流点右岸と敷島神社との間に広がる斜面林のある公園です。斜面林に沿って水路と池があり、池の前にはあずま屋があります。ここで毎月1回、ゴミ拾いと手入れを行っています。併せて新河岸川河川敷のゴミ拾いも行っています。9時半にあずま屋に集合します。まず、あずま屋から水路沿いに公園入口まで行きます。公園入口から折り返すように、敷島神社裏の遊歩道に登っていきます。赤土の遊歩道をマンション裏まで進み、舗装道路で折り返し、途中の階段を下りてあずま屋に戻ります。その後は、池の脇、その先の水路の脇を歩き、落ちないように気を付けながら、土手に手をかけてよじ登ります。富士下橋の先を進み、住宅があるところまでの斜面が、手入れの対象部分です。

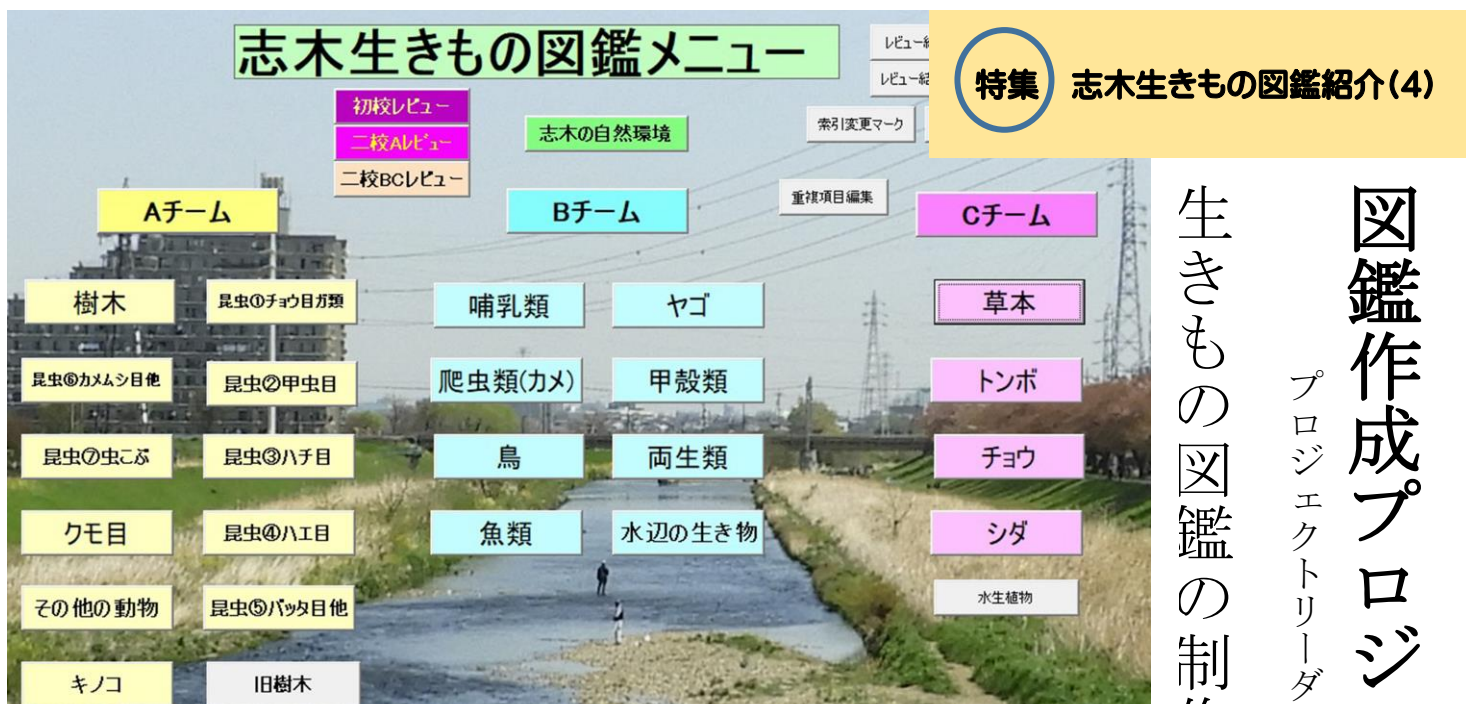
12月は、11月が雨で中止となったため2カ月ぶりの手入れとなりました。折れた枝や枯葉が沢山落ちていました。水路脇の斜面は、ササが伸び、常緑樹もあちこち生えて見栄えも良くありません。斜面に入り、枯れ枝を拾い集め、伸びたササを詰め、常緑樹を刈り取りました。大分スッキリしました。残っているところは、他にやる事もあるので、またの機会にすることにしました。この遊歩道もそうですが、敷島神社裏からマンション裏まで伸びている遊歩道には、沢山の落ち葉が積もってしまっています。この落ち葉をかき集めて斜面林の中の土留めに押し込みます。全部はとても片づけられず、遊歩道の脇に残してここの作業は終了としました。翌月の1月は、朝まで雨が降っていましたが、集合時間には止みました。参加人数が少ない為、ゴミ拾いグループを特に分けずに行いました。いつもの通り斜面下の水路脇を通って、敷島神社の裏に登って行きました。前回に続きマンション裏の遊歩道の落ち葉をきれいに片づけました。落ち葉は、雨水を吸い込みズッシリと重くなっていました。あずま屋に戻って休憩しているとカワセミがやってきました。池の先の斜面林は、雨に濡れているので、木々の手入れは行



わず、土手から投げ込まれたゴミを拾い集めるだけにしました。新河岸川の河川敷に目をやると、増水



したときのゴミが大量に散乱していました。降りて目に見えるものは、全部拾ってきれいにして、この日の作業を終えました。2月の作業日は天気が良く、子供達が、田子山富士周辺で元気よく遊んでいました。遊歩道の保全作業を一通り終えて、前回作業ができなかった土手脇の斜面林の手入れを行いました。大分、キツネノカミソリが生えているのを確認することができました。日陰を作る低木の常緑樹を刈り取り、日が当たるようにしました。(青木 明雄)



特集 志木生きもの図鑑紹介(4)

図鑑作成プロジェクト

プロジェクトリーダー 青木明雄

生きもの図鑑の制作・刊行について

生きもの図鑑は、2015年4月10日の20周年記念事業検討会にて、作成することになりました。

1. プロジェクトの立ち上げ

天田さん、毛利さん、山崎さんを交えて4回の事前検討会を行いながら、プロジェクトメンバーの募集を行い、6月7日に「志木生きもの図鑑」の第1回プロジェクト会議を行い、図鑑の制作を開始しました。今となっては無謀な計画でしたが、2年間の事業として、2016年中の刊行としました。

プロジェクトは、掲載内容を3チームで分担する体制とし、私は、プロジェクトリーダーとしてこの事業の取り纏め役を担うこととなりました。具体的な分担と体制については、「志木生きもの図鑑」をご参照ください。

2. 生きもの図鑑について

図鑑のコンセプトは、「散歩に携行して、見かけた生きものの名前が調べやすいハンドブック」です。

- ①携行しやすく、B6版175頁とする
- ②動植物全般を掲載する
- ③志木市の環境についても説明する
- ④志木市内で見かける生きもののしか掲載しない

この事業は、エコシティ志木の単独事業とし、会員だけで行うことはもとより、

写真も会員が撮ったものだけを使うことにしました。また、撮影場所も志木市内（水谷田んぼ含む。以下同じ。）だけのものとししました。

3. 掲載種の洗い出しと写真及び文章の作成

Aチーム（天田リーダー）：樹木、キノコ、は虫類、貝類・節足動物など、クモ、昆虫（チョウ、トンボ以外）

Bチーム（毛利リーダー）：ほ乳類、鳥類、魚類、甲殻類、水辺の生きもの

Cチーム（山崎リーダー）：野草、シダ、昆虫（チョウ・トンボ）

シダとキノコについては、不安もあったが、生きもの全般を載せる方針を貫くことにしました。



掲載するものは、全て全員で議論して決定し、チームでの対応後の変更内容も全員で確認しながら進めることとしました。このプロジェクトを通して、メンバーが少しでも生きものに詳しくなることも、大きな目標としました。円滑な運営を図るため、リーダーによる推進会議を設けて進めました。

4. 写真及び説明文の全体レビューと結果管理

生きものについて、担当チームで写真の確保と説明文を作成し、全員で写真の評価・選択と説明文のレビューを行いました。レビューの結果、写真の撮り直し・差し替えと文章の修正を行いながら全ての記載内容について繰り返し、繰り返しレビューを行い、全体の整合性を取りながら、見やすく、使いやすいものに仕上げました。

この為に、掲載種ごとに、画像と文章を結び付けたExcelDBを作成し、画面の比較評価・差し替え、レビュー結果の記録とレビュー前後の写真や

遅れが目立ってきました。内容のレベルは、不十分なものの図鑑本としての構成を進める為にも、ある程度整理できてきたBチーム分とCチーム分だけのもので、2017年9月10日に初校版を作成しました。Aチーム分を含めた2校版ができたのは、2018年7月17日でした。

7. 印刷物でのレビュー・修正

図鑑本とするために、表紙、目次、索引などを決め、図鑑の正式名称も「散歩が楽しくなる志木生きもの図鑑」としました。空きページには、生きものの説明やドングリクイズや水草のコラム等



セイヨウカラシナ
アブラナ科 花期 4～5月
外来植物(ロシアで栽培)
高さ1～1.5m。4枚の花弁を持った黄色の花をつける。河川敷や土手などに群生する。辛みのある葉は食用になる。セイヨウカラシナは葉が茎を抱かないが、よく似たセイヨウアブラナは葉が茎を抱き、茎や葉が白い粉をふいている。

葉が茎を抱かない写真
葉が茎を抱く写真

二校版BCレビュー

登録 全体 A B C
初稿データレビュー記録

P画像選択	見開きP選択	見開き表示	チーム	次
変更	追加	削除	ページ指定	15
				表示

○ セイヨウカラシナ
○ ナズナ
○ マメグンバイナズナ

項目画像選択

二校データ画面へ

初校データ画面へ

樹木日画像画面

画像追加

説明 ⇒ 拡大

画像数 1

初校説明

変更登録説明

拡大

レビュー記録

高さ1～1.5m。4枚の花弁を持った黄色の花をつける。河川敷や土手などに群生する。辛みのある葉は食用になる。セイヨウカラシナは葉が茎を抱かないが、よく似たセイヨウアブラナは葉が茎を抱き、茎や葉が白い粉をふいている

余白部分に葉の付き方の写真を2枚入れる
葉が茎を抱かない……038セイヨウカラシナ11
葉が茎を抱く……160セイヨウアブラナ04

15頁セイヨウカラシナのレビュー画面

文章も画面で見ながら操作するシステムを作成しました。ページ割り当てや掲載ページの移動もこのシステムで行い、索引データも、このDBからリストを作成し、変更時の変更箇所リスト等を自動作成し、管理の徹底を図りました。全てプロジェクターで見ながら行うことで大幅な紙の削減ができました。

5. 現地観察会の実施

志木市内の環境と生き物を観察するために、大きく7地域に分けて、現地観察会を行いました。この観察会は、今も「生きもの調査・観察」のイベントとして行っております。

6. 生きもの図鑑本として構成

掲載種ごとの写真と説明文作成については、数が多く、写真についても撮り溜めたものからの抽出や新たな撮影にもかなり手間がかかり、大幅に

を入れ、全体の表現の不揃い等の見直し・統一を行いながら、この図鑑が出来上がりました。プロジェクトの皆さん、大変ご苦労様でした。

この図鑑は、市内の小中高学校、図書館・資料館等に配布します。自然を生かしたまちづくりに役立てばと思います。掲載された生きものを、いつまでも見られる自然が、今後に残っていくことを願っています。



志木の生きもの調査

2月初め、当NPO発行の「志木 生きもの図鑑」が完成しました。野草・樹木・キノコから鳥類・クモ・昆虫・魚類等々まで、志木でよく見られる動植物をカバーしたもので、収録範囲の広さ、写真の鮮明さに驚かされます。今後の生きもの調査には、必携のアイテムとなりそうです。

ものの名前を知るということは、見えるものを意識化・言語化することで、安心感を得られるのだそうですが、生きものの名前がわかった時、似ている種の見分けができた時、何故か嬉しく、楽しくなります。

最近、次のような短歌に出会いました。

農大生の友と歩けば土手に咲く花は次々
名をもらひたり (東京 吉田 久枝)

第21回NHK全国短歌大会特選の作品です。

農大生ではないですが、当NPOには、生きものの名前を尋ねれば、すぐに答えてくれるウォーキング・ディクショナリーともいうべき先達が、代表の天田さんはじめ、何人かおられます。初心者には、本当にありがたい存在です。今後も、「図鑑」に収録された定番の動植物をベースに、それ以外の種や珍しい種も含めて、教えていただきながら、そして、自分でも調べながら、観察・記録を楽しんでいきたいと思います。この冬も、前年とほぼ同時期に、同じ場所を訪ねました。

～柳瀬川周辺～12月8日(日)

志木中前の土手に集合、柳瀬川と水谷田んぼを調査・観察。

ハルジオン、ヒメジョオンの淡紫色の花が、陽当たりのよい田んぼ沿いの道や畔に、綺麗に咲いていました。大きく育ったシロザの葉が紅葉し、粒々の果実も赤く色づいていました。田んぼの水路の臙脂色水草は、特定外来生物、アメリカオオアカウキサ(アゾラ・クリスタータ)だそうです。



[写真：青木 明雄]

～柏町及び本町周辺～1月19日(日)

柳瀬川駅東口に集合、柏町及び本町周辺を調査・観察。

道々、これから花をつけるであろうスミレやハコベを確認。柏ふれあいの森では、まだ葉のみですが、初夏には白い花を咲かせる、南アメリカ原産の外来種、トキワツユクサ(別名ノハカタカラクサ)や、キンポウゲ科のヒメウズを観察。氷川神社では、鳥



[写真：青木 明雄]

居脇の樹木に絡みついて何個も朱い実をつけているカラスウリ、巨木の切り株に生えたアラゲキクラゲ、ウチワタケの仲間などのキノコを観察しました。

～新河岸川周辺～2月16日(日)

あいにくの雨で中止。旧村山快哉堂前(いろは親水公園)に集合、中宗岡及び下宗岡周辺を調査・観察の予定でした。

(庭野 恵子)

- ①夕焼け富士山 12月5日 荒川から [青木 明雄]
 ②アメリカオオアカウキクサ 12月8日 [庭野 恵子]
 志木の生きもの調査～柳瀬川周辺
 ③アオツツラフジ 12月14日 柳瀬川駅近く [庭野 恵子]
 ④ハシビロガモ♀ 12月14日 柳瀬川 [青木 明雄]
 ⑤マガモ♂ 12月14日 柳瀬川 [青木 明雄]
 <新座で拾ったヒマラヤスギの実の中> [天田 眞]
 ⑥ムーアシロホシテントウ 12月17日
 ⑦ナガメ 1月3日
 ⑧マツカレハ幼虫 1月3日
 ⑨ナミスジフユナミシヤク雄 (冬季に繁殖行動するガ)
 1月17日 志木市館 [天田 眞]
 ⑩アラゲキクラゲ 1月19日 柏町氷川神社 [天田 眞]
 ⑪コゲラ 2月23日 こもれびのこみち [青木 明雄]



①夕焼け富士山



④ハシビロガモ♀



②アメリカ
オオアカ
ウキクサ



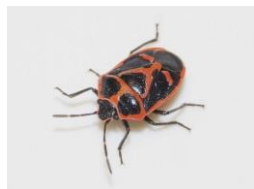
③アオツツ
ラフジ



⑤マガモ♂



⑥ムーアシロホシ
テントウ



⑦ナガメ



⑧マツカレハ幼虫



⑨ナミスジフユナ
ミシヤク雄



⑩アラゲキクラゲ



⑪コゲラ

会員紹介 竹野 延枝さん ～おばあちゃん役を楽しむ弓道5段～



青木さんから自己紹介の原稿を頼まれて、改めて自分について考えてしまった。「これが私です。」と自分を紹介する「これ」って何だろう。過去ではなく、現在進行形の自分でなければと思う。

今、一番私の中に占めている役は「おばあちゃん」である。孫が2歳で、まだ新米のおばあちゃん。単刀直入、おばあちゃんが、こんなに面白いとは、考えてもみなかった。孫は新鮮だ。立って歩くようになると、一緒にいる私のやる事をなんでもまねる。茶碗を拭いていれば、同じことをやりたがる。割れないようにとプラスチックのものを渡すと、それではだめである。よく見ている。うっかり足でドアなど閉められない。言葉もそうだ。同じような調子で反復する。子供の言葉使いの悪いのは、絶対周りの大人のせいであると確信した。

記憶力もものすごい。聞いた言葉を単純に反復するだけでなく、自分の会話の中で正しく使ってくる。記憶力、集中力は、この時期がピークなのかもしれない。こうしたい、ああしたい、という自我が芽生えてくるような気がする。

もう一つは、弓道。これは、30年以上続けているので、私を説明するには、はずせない。市民体育館の武道場の3階に、弓道場はある。28メートル先の約36cmの的に矢をあてる。実に単純な競技である。動作も、射法八節といったら八つしかなく、実に単純なのだが、この単純が曲者である。昇段審査では、5段をもらっているが、やればやるほど違うものが見えてくる。奥が深いのである。

あとは、落ち葉を集めたり、草を取ったり・刈ったり、自然の中で活動するのも大好きなのです。

こんな私ですが、皆様これからもよろしく願いします。



☆会員状況

2019年度更新済（2月18日現在）
正会員（個人） 41（内、新入会員2）
正会員（団体） 2
賛助会員 2

★本会の財政基盤は、会員の方の年会費が頼りです。

★2020年度の継続更新を、引き続きよろしくお願いします。

■当会の団体正会員

志木おやこ劇場
生活クラブ生協志木支部

■当会の団体賛助会員

慶應義塾志木高等学校

■当会が参加している団体ネットワーク

登録制度、及び協力団体

志木おやこ劇場
いろは遊学館利用者の会
志木市コミュニティー協議会
志木市社会福祉協議会
柳瀬川流域ネットワーク
新河岸川水系水環境連絡会
新河岸川流域川づくり連絡会
柳瀬川流域水循環再生市民懇談会
彩の国南西部地域NPO連絡会
川の国応援団
埼玉県生物多様性保全活動団体登録
彩の国みどりのサポーターズクラブ
志木市公園美化活動会
志木市放課後子ども教室りんくす
志木市教育サポートセンター
市内小中学校

情報満載！
当会のホームページ

NPO法人エコシティ志木
<http://kappa-no.net/eco-shiki/>
志木まるごと博物館河童のつづら
<http://kappa-no.net/>

活動写真のパネル展示

青木 明雄

エコシティ志木の活動を写真パネルで紹介しています。今回は、2回のイベントに参加して当会の活動を皆さんに紹介しました。

1つは、12月21日（土）に行われた新河岸川流域川づくり連絡会の「川でつながる発表会」です。午前中は、東大和市駅から玉川上水駅までと奈良橋川との合流点から上流の空堀川の2か所の現地見学会です。午後は、中小企業大学校東京校での発表会です。小学生と大学生からの流域での学習や調査活動についての発表がありました。また、展示会場では、各団体の様々な活動についての紹介がありました。私たちも活動の内容を写真パネルにしたもので紹介をさせていただきました。会場の中央の場所を使わせていただき、沢山のパネルで紹介させていただきました。

もう一つは、2月1日（土）に行われた「川の再生交流会」のポスターセッションです。午前中の全大会と午後の分科会の間の昼休み前に行われました。スペースを考えて、少し少なめのパネルを用意していましたが、思ったより展示スペースがあり、ゆとりのある展示となりました。いつもより若い人の参加が多く、今後の活動が楽しみに思いました。ちょうど「志木生きもの図鑑」も出来上がっていましたので、皆さんに紹介することができました。

2つのイベントとも毎年行われており、都合が合えば必ず参加して、パネル展示を行っています。



川でつながる発表会での活動パネル展示

生物の分類で科の上にある目にアミメカゲロウ目があります。この仲間はトンボのように透明で網目模様の翅をもっていますが、トンボやカゲロウ（84号で紹介）とは全く別の昆虫です。トンボやカゲロウは幼虫が水中で暮らし、蛹にならない不完全変態ですが、アミメカゲロウの仲間はずっと陸で暮らし蛹になる完全変態です。

クサカゲロウ（カオマダラクサカゲロウやアミメクサカゲロウなど）の成虫は、体長15～25mmの薄緑色の細長い体で、透明な大きな翅と長い触覚を持っています。ゴマ粒ほどの卵は優曇華（うどんげ）の花と呼ばれ、長い糸の先に1卵ずつ付いたものが10数個集まってぶら下がっています。アブラムシの集団がいるところに産み付けられていることもあります。幼虫は細長い体形で、口の前に大あごがあり、アブラムシを捉えて体液を吸います。種類にもよりますが、幼虫は背中にゴミ（ア

ブラムシなど獲物の死骸や脱皮殻・植物片など）を背負ってカモフラージュしています。蛹になるときは糸を出し、ゴミを周りにつけた小さな繭をつくります。

ウスバカゲロウも透明な翅と細長い体形はよく似ていますが、体長は35～45mm、体色は灰色で短い触覚。幼虫はいわゆるアリジゴクで、乾いた地面にすり鉢状の穴をつくり、底の土中に潜み、穴に落ち込む小動物を捕まえ体液を吸います。体の前にはクワガタムシのような巨大なあごがあり、虫が落下しかけると下から砂を投げつけ底に落とし瞬時に捕まえます。体液を吸われ干からびた死骸は穴の外へ放り投げられます。蛹になるときは土中で土の粒をくっつけた15mmくらいの丸い繭をつくります。



アミメクサカゲロウ成虫



クサカゲロウ幼虫



葉のかげらを背負った幼虫



綿状のゴミを背負った幼虫



クサカゲロウの卵



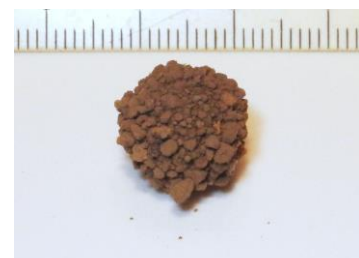
ウスバカゲロウ



ウスバカゲロウの巣（アリジゴク）



ウスバカゲロウ幼虫



ウスバカゲロウ繭

巨 樹 と の 出 会 い

《 2 》 志木市の巨樹たち…その2

本間 敏文

前回から、宝幢寺のイチョウの巨樹を見てきましたが、イチョウには面白い話がありますので少しお話ししたいと思います。イチョウの起源は、古く、恐竜のいた時代よりももっとずっと前で、約2億年前には地球上にたくさんの種類が分布していたと考えられています。しかし、氷河期にその大半が絶滅し、現在確認できる原種は、中国で野生生育する1種類だけです。そして、世界各地で化石が発見され、現在も化石と同じ姿であることから「生きた化石」と言われています。

さて、ご承知のようにイチョウは裸子植物ですが、裸子植物や被子植物では精子を作ることはないので、なんと花粉の中に精子を持っており、精子が泳いで受精し種子が出来るのです。

最後にイチョウの変種として、「オハツキイチョウ」をご紹介します。これは、葉の上で実を結ぶ、または葉上に葯を付けるイチョウで、全国に約20本の存在が知られています。



【山梨県の身延町にあります本国寺のイチョウの巨樹についているオハツキイチョウの実です】

次に、宝幢寺のケヤキの巨樹を見にいきましょう。ここには6本あり、山門を入れて左右に1本ずつ、本堂の横側に2本、本堂の裏手に1本、長屋門の外側に1本あります。幹周りは小さいので316cm、大きいので592cm(株立ち)もあります。健康度は概ね良好で、特に欠損もなく元気な巨樹たちです。



【宝幢寺の長屋門の外側のケヤキの巨樹】

編集後記

やっと「生きもの図鑑」が刊行しました。既に一部の会員には、お渡ししておりますが、まだの会員の方には、この通信に同封させていただきました。いよいよこれから春です。新型コロナウイルスも気になるところですが、市内を散歩するときに、活用していただければと思います。楽しくなることと思います。(青木明雄)

エコシティ志木通信

第97号 2020年3月1日

〈発行〉

NPO法人 エコシティ志木

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

電話/FAX 048-471-1338 (天田真)

URL <http://kappa-no.net/eco-shiki/>

E-mail eco-shiki@ff.e-mansion.com